



ペクチンアレルギーとカシューナッツアレルギーの関連について



ペクチンってなに？

ペクチンは食品添加物の一種で、ゼリーやグミ、フルーチェなどの増粘剤に使用されています。最近では医薬品や入浴剤などにも使用され、使用頻度が増加しています。ペクチンは主に、リンゴの搾滓やオレンジなどの柑橘類の皮から抽出、乾燥させ作成されており、2種類（LM ペクチン、HM ペクチン）あります。近年、カシューナッツアレルギーがあると、ペクチンアレルギーのリスクになる事が指摘されています。

最近、食物アレルギーの原因としてナッツ類が増加しており、2023年4月に特定原材料（表示が義務づけられているアレルギー品目）にくるみが追加されました。カシューナッツはくるみに次いでアレルギーが増えており、それに伴ってペクチンアレルギーの報告も増えてきています。そこでペク

チンアレルギーを正しく診断するために、「ペクチンアレルギーにおけるカシューナッツアレルギーとの関連の解明と診断方法の開発について」の研究を行うことにしました。

今回の研究では

- ▶ 過去にカシューナッツ負荷試験で陽性だった方
- ▶ 血液検査でカシューナッツに反応がある方が対象となります。

研究の内容としては、血液検査、プリックテスト（皮膚のテスト）、食物経口負荷試験（LM ペクチン、HM ペクチンの2回）、アンケートを行う予定です。

該当する方にはお声かけさせていただきますので、ぜひご協力いただけますと幸いです。なにかご質問がありましたら、アレルギー科までお問合せください。

（アレルギー科・小児科 金井 怜）

5病棟

病棟紹介

5病棟は重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複した方が入院されています。中には重い障害を持った児(者)の方もおり、人工呼吸器の管理や栄養管理など生命維持に欠かせないケアを行っています。自分で意思を訴えることができる患者が少ないため、看護師は五感を使ってこまかな観察を行い日々患者さまが安楽に生活できるよう努めています。細かな観察や管理と多くのケアが必要なため、スタッフには医療技術だけでなく患者様をよく見る力が求められます。緊張あるケアの中ですが、季節に応じた行事で見せる患者様の表情やわずかな変化を読み取ることができたときはとてもうれしく、重心病棟でのケアに魅力を感じます。

5病棟までの廊下には患者様の作品が飾ってあります。ぜひご覧になってください。(看護師長 稲吉 瑠美)



5病棟の生活のひとコマ 88



ようやく春がやってきました。新年度ということもあり環境の変化などで体調を崩しやすい時期でもあるので、栄養や睡眠をしっかり取って体調管理を行っていきたいですね。さて5病棟では、3

月に病棟行事である「フラワーフェスティバル」を開催しました。プレイルーム内をさまざまなお花で飾りつけ、春らしい雰囲気をお客さんに楽しんでいただきました。フラワーロード内にある桜の飾りはとても大きく迫力のある作品で、みなさん圧倒されていました。ゲームコーナーではボールころがしを行い、ボールを無事にゴールまで運ぶために真剣な表情で参加する患者さんの姿もみられました。おやつコーナーではコーヤやオレンジジュースなどさまざまな種類の飲み物やお菓子を用意し、患者さんに選んでいただきました。おやつを食べて満面の笑みを浮かべる患者さんの姿がとても印象的でした。2024年一発目の病棟行事は大盛況で幕を閉じました。

(児童指導員 森 日奈子)



2病棟

子どもたちの生活のひとコマ



な門出を祝う会として「出発の会」をおこないました。入院した時期も向き合っている病気や治療も異なる子どもたちで

ようやく春の暖かさを感じられる頃になってきました。しばらくは過ごしやすい日々を送れそうな気がします。色とりどりの花たちに目を向けながら春を満喫したいですね。

さて、今回2病棟ではみんなで1年間をふりかえり、新たな気分で行きましょう！

すが、出発の会では共同制作として「ちぎり絵」を行いました。自分のパーツのちぎり絵だけでは何の絵かわからない子どもたちでしたが、みんなのパーツを寄せ集めてひとつの絵が完成すると、「うわ～すごい!」「私はこの部分をしたよ」などの声があがり、完成をともに喜ぶ姿がみられました。みんなの想いのつまった素敵な作品が出来上がりました。

4月から新たな1年が始まります。体調に気を付けながら、また新たな気分で行きましょう！

(児童指導員 平田 真理子)

